

第91回メーデーに寄せて **委員長アピール**

感染症対策とも懸命に向き合いながら、働くものの団結でいのちと健康をまもり、「だれもが8時間働けばまともな暮らしができる社会」を実現しよう！

今年は、1920年5月に日本で初めてメーデーが取り組まれてから、ちょうど100年目を迎えます。メーデーの起源は、1886年5月1日にアメリカの労働者が8時間労働制を要求(当時は1日14時間以上の労働時間を強いられていた)して集会、デモ行進を行ったことが始まりです。「だれもが8時間働けばまともな暮らしができる社会」をめざすうえで、8時間労働制を求めて労働者が立ち上がったメーデーの意義は、今まさに重要性を増しています。

しかし、残念ながら今年のメーデーは、新型コロナウイルス感染拡大の最中、三密を避けるために集会やデモ行進は自粛が求められ、取り組みも変更せざるを得ない状況です。

医療・介護現場では、恒常的な人手不足・過密労働が続いており、この間、大幅増員・夜勤制限・長時間労働の改善を求め運動してきました。日常的に困難な状況の中で、さらに今回新型コロナの感染と懸命向き合い患者・国民のいのちと健康を守るために奮闘をしています。

労働者をめぐるここ数年の動きの中で、「働き方」の見直しが求められる状況も広がってきました。しかし医療・介護現場では、引き続き慢性的な人員不足と過酷な夜勤交替制勤務の改善が求められる状況です。感染症拡大とのたたかいの中で、医療・介護現場の労働条件改善の必要性については、いま大きな世論の支持となって広がっています。

大変な状況下ではありますが、今こそ労働者の団結と連帯が求められ、メーデーの精神にも沿って「だれもが8時間働けばまともな暮らしができる社会」実現をアピールすべき時ではないでしょうか。

メーデー集会やデモはできなくとも、各職場でメーデーの意義を話し合い、働く仲間の要求実現をめざして、アピール活用や全労連が提起するメッセージの発信など、引き続き運動をすすめる決意を確認し奮闘しましょう。

貧困と格差是正のため、労働者・国民のいのち・くらしを守るために、憲法25条が名実ともに活かされる社会の実現をめざしましょう。

第91回メーデー万歳！

2020年5月1日

日本医療労働組合連合会
中央執行委員長 森田しのぶ